

## 平成30年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分ご理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成30年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

#### 2 調査期日

平成30年4月17日(火)

#### 3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

#### 4 本校の実施状況

第2学年	国語	235人	社会	236人	数学	236人
	理科	237人	英語	237人		

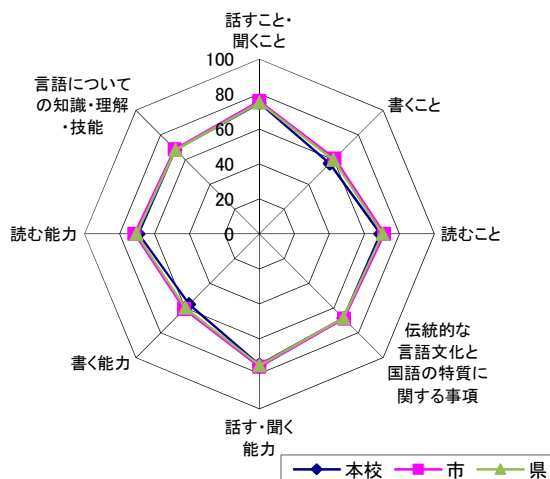
#### 5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、 「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立清原中学校 第2学年【国語】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

テストで問	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	74.9	76.0	75.2
	書くこと	56.9	60.9	59.9
	読むこと	69.2	71.4	70.4
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	68.1	68.5	68.0
観点	話す・聞く能力	74.9	76.0	75.2
	書く能力	56.9	60.9	59.9
	読む能力	69.2	71.4	70.4
	言語についての知識・理解・技能	68.1	68.5	68.0



## ★指導の工夫と改善

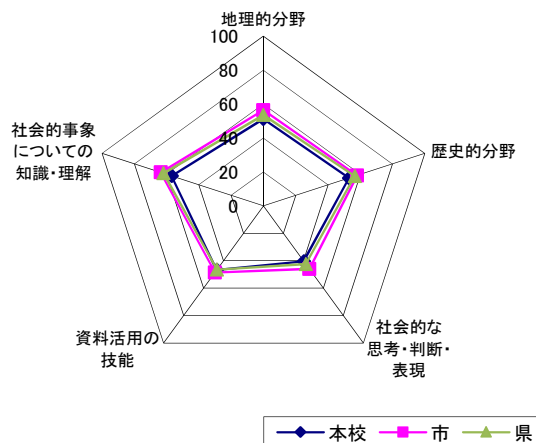
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○授業中に話しをよく聞くことができる。 ●平均正答率が県平均より0.3ポイント、市平均より1.1ポイント低い結果となっている。 自分の考えを、根拠にもとづいて話すことが苦手な傾向にある。	・話をきくことはできているので、授業中に話す機会を多く設定する。また、話し方のパターンを練習するような活動も取り入れた授業を行う。
書くこと	○パターンが決まっていれば、その通りに書くことができる。 ●平均正答率が県平均より3ポイント、市平均より4ポイント低く、他の領域に比べて落ち込みが大きい結果となっている。 応用が利かず、条件が多いと混乱しがちである。また、書く分量が多いとあきらめがち傾向にある。	・記述問題をあきらめてしまう生徒には、パターンを提示してまずその通りに書くことから指導する。また、データを読み取って書くような練習を、授業の中でも取り入れ、記述に慣れさせる。
読むこと	○文章の読み取りはよくできている。 ●平均正答率が県平均より1.2ポイント、市平均より2.2ポイント低い結果となっている。 設問の意味を理解せずに答えるなど、じっくりと考えずに解答する傾向にある。	・設問の意味や、解答方法をよく考えて解答する練習を授業でも取り入れ、指導内容を工夫する。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○平均正答率が県平均より0.1ポイント高い結果となっている。漢字の学習を普段からよく取り組んでいる。 ●平均正答率が市平均より0.4ポイント低い結果となっている。 文法に苦手意識を持つ生徒が多い傾向にある。	・朝の読書や日々の自主学習、小テストなどの取り組みにより、基礎的な知識はあると考えられる。今後は身についた知識を、他の領域に生かせるような取り組みを考え、指導内容を工夫する。

# 宇都宮市立清原中学校 第2学年【社会】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

テストで問	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理的分野	51.2	56.4	53.5
	歴史的分野	53.0	58.0	56.6
	社会的な思考・判断・表現	40.5	46.1	42.5
	資料活用 of 技能	46.7	48.6	46.5
	社会的な事象についての知識・理解	56.9	63.6	61.9



## ★指導の工夫と改善

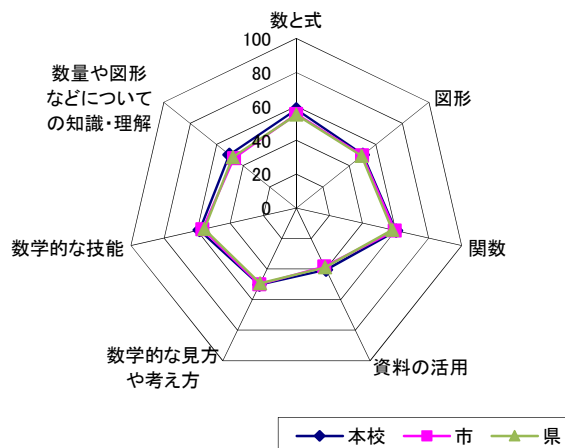
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	平成29年4月18日（火）	今後の指導の重点
地理的分野	<p>平均正答率は、市の平均を5.2ポイント下回っている。</p> <p>○世界の地域構成は市の平均を上回った。特に地球儀上の大陸の名称、地球上に示された地点の経度の読み取り、適切な地図を選択し、示された地点の方位を問う設問は市の平均を上回った。</p> <p>●世界各地の人々の生活と環境や北アメリカ州の山脈は、大きく市の平均を下回った。</p>	<p>【地理的分野・歴史的分野を通して】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前回に比べ、社会的な思考・判断・表現の達成率が向上しているのは、学校全体で研究課題として授業の中に話し合い活動を取り入れてきた成果であると考えられる。今後も、話し合い活動の充実を図り、それらの能力を育てるようにする。</li> <li>・社会的な事象の知識・理解が弱いのは、ずっと以前に授業で学んだことを、家庭で復習する習慣が定着していないためと考えられる。そこで授業の終わりに、復習するポイントを伝え家庭学習への意欲を持たせる。また授業の中で従来の単元ごとの復習以外に、いくつかの単元をまとめて復習したり、年度末に総復習をする時間を設ける。</li> </ul>
歴史的分野	<p>平均正答率は、市の平均を5.0ポイント下回っている。</p> <p>○鎌倉幕府の置かれた場所を問う設問は、市の平均を8.4ポイント上回った。</p> <p>●古代における九州での警備に関する負担の名称を問う問題の正答率は、特に市の平均を大きく下回った。</p>	

# 宇都宮市立清原中学校 第2学年【数学】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

リストで開	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	58.2	55.4	55.0
	図形	50.3	49.8	49.2
	関数	60.3	59.6	58.0
	資料の活用	40.4	38.3	38.9
観点	数学的な見方や考え方	50.2	50.0	49.3
	数学的な技能	58.5	56.7	55.7
	数量や図形などについての知識・理解	50.5	47.0	47.9



## ★指導の工夫と改善

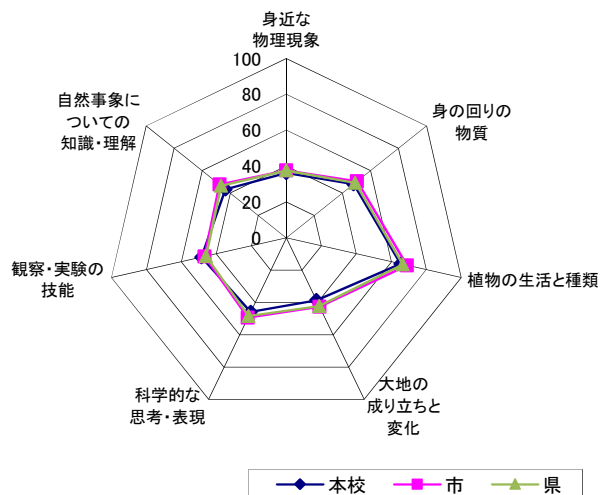
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○数と式の平均正答率は3ポイントほど県と市を上回った。 ●多くの生徒が定着していたものの一部の生徒はまだできていない状態にあった。特に、基準を設定して基準を下回った数を負の数で表すことが苦手である。	・数と式はすべての数学の基盤となるとても大切なところであるので、計算力を上げるために毎回の授業で繰り返しテストを行う。
図形	○図形の平均正答率は0.5ポイントほど県と市を上回った。 特に作図に表すのは得意なようだ。 ●空間図形が県と市を0.9ポイント下回った。特に、ねじれの位置が1.3ポイント下回った。	・ここでは空間図形が課題である。生徒たちにとって空間図形はイメージがしにくいので、実物やパソコンに映し出された図形を使って理解を深めるように指導を工夫する。
関数	○関数の平均正答率は0.7ポイントほど県と市を上回った。 関係を式で表すことが1.8ポイント上回った。 ●関数の中でも記述式が0.6ポイント下回り式を使って値を出すことが苦手である。	・式にすることはできるが、その活用ができていない。式を作らせるだけでなく、それぞれの文字が何を表しているかを理解させ、いろいろな場面に活用できるような力を育てるようにする。記述も苦手なので丁寧に書く習慣を付けるともに、発表させる機会を作る。
資料の活用	○資料の活用が2.1ポイントほど県と市を上回った。 特に、相対度数を求める問題は10ポイントほど上回っていた。 ●代表値が苦手で2.8ポイント県と市を下回った。中央値を答える問題が4.1ポイント下回った。	代表値についてもっと詳しく指導し、それぞれの意味を正しく理解させ、実際の使い方の演習を繰り返し行う。

# 宇都宮市立清原中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

テストで問	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	身近な物理現象	36.1	37.6	37.5
	身の回りの物質	47.9	50.5	49.1
	植物の生活と種類	65.3	69.0	66.6
	大地の成り立ちと変化	38.6	42.7	42.2
観点	科学的な思考・表現	45.9	49.4	48.5
	観察・実験の技能	48.5	46.8	45.9
	自然事象についての知識・理解	43.4	47.6	46.5



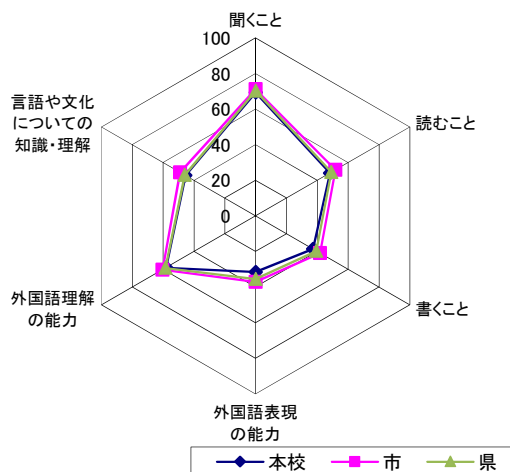
## ★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
身近な物理現象	<p>平均正答率は市の平均より1.5ポイント下回っている。</p> <p>○グラフや表からおもりの重さを求める問題の正答率が高い。</p> <p>●凸レンズによるスクリーンに映る像の向きについての問題の正答率が低い。</p> <p>●実験結果を比較したり、実験結果から分かることを説明する問題の正答率が低い。</p>	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <p>・実験を行う際に結果を予想したり、結果をまとめる際に科学的思考を使って表現させるように工夫する必要がある。</p> <p>・グラフを読みとったり計算をすることが得意なので今後もグラフを読み取る力や計算力を育てるようにする。</p>
身の回りの物質	<p>平均正答率は市の平均より2.6ポイント下回っている。</p> <p>○ガスバーナーやメスシリンダーの使い方に関する問題の正答率が高い。</p> <p>●表を読み取り、答えを選んでその理由を答える問題の正答率が低く、無回答率が高い。</p>	<p>・実験に積極的に参加しているため、実験に関する技能は身に付いていると思われる。今後も実験を行う機会を設け、実験の技能を育てるようにする。</p> <p>・実験の考察を行う時に、自分の考えを的確に書けない生徒に対し手だてを示し、考察を書かせるように工夫する。</p>
植物の生活と種類	<p>平均正答率は市の平均より3.7ポイント下回っている。</p> <p>○光合成が行われている部分の比較をする場所を選ぶ問題の正答率が市平均よりやや高い。</p> <p>●シダ植物の仲間のふやし方や植物のなかまの名前を答える問題の正答率が低い。</p>	<p>・この単元は1年生の初めに学習した内容なので、記憶があいまいになっていると考えられる。授業中に少しずつ復習をしたり、年度末に1・2年の内容の総復習を行う。</p> <p>・実験結果をもとに分かったことを説明することが苦手なので、実験結果を考察する際に自分の言葉で表現できるように手立てをする必要があるため、実験後に各自にレポートをかかせ、話し合い活動を行わせる。</p>
大地の成り立ちと変化	<p>平均正答率は市の平均より4.1ポイント下回っている。</p> <p>●すべての問題において市平均より正答率が低い。</p> <p>●花こう岩のでき方を推測して答える問題の正答率が低く、無回答率が高い。</p>	<p>・1年生の最後に学習した単元であるが、基本的な事項の定着が図られていない。単元末に確認テストを行い、基礎的な知識を身に付けさせるようにする。</p> <p>・記述式の問題では、無回答率が高くなってしまふ。普段の授業において実験で分かったことを説明したり、考えたことを書いたりする機会を多く設ける。また、定期テストでも記述式の問題を多めに出题するようにし、自分の考えを表現する力を育てるようにする。</p>

# 宇都宮市立清原中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

テストで問 領域等	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	69.4	71.1	70.2
	読むこと	48.2	51.8	49.1
	書くこと	37.2	41.8	39.4
観点	外国語表現の能力	31.5	37.1	35.5
	外国語理解の能力	58.1	60.4	58.5
	言語や文化についての知識・理解	45.6	49.0	46.0



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<p>○スピーチを聞いて、内容を理解する力は、県の平均よりも上回っている。</p> <p>●疑問詞を用いた疑問文の聞き取りに関しては、県の平均を5ポイント以上下回っている。</p>	<p>・授業内でクラスルームイングリッシュを充実させ、英語を聞くことに対する抵抗を減らしていく。</p> <p>・聞き取りについては、授業内で英語に苦手意識がある生徒も前向きに取り組もうとする姿勢が見られる。定期的に、単元ごとにリスニングテストを実施するなどして、苦手とする疑問詞を用いた英語も聞き取れるよう慣れさせる。</p>
読むこと	<p>○対話文内の質問文に適する応答文を選ぶ問題は、県の平均よりも2ポイント以上上回っている。</p> <p>●全体の正答率は県の平均よりもわずかに下回っている。特に、長文の読み取りと語順整理の問題の正答率が低くなっている。</p>	<p>・長文読解への対策としては、長い英文を読むことに対して苦手意識を持っている生徒が多いため、教科書に記載されている英文から順に、日本語訳を与えずに内容を考えさせる取組を行っていく。</p> <p>・語順整理の問題では、文法事項や文型の理解ができていない生徒が多いため、文法事項を教えたあと、ドリルの問題などを通してより理解を深める。</p>
書くこと	<p>●正答率は、県の平均よりも2ポイント以上下回っている。特に、指定された課題に対しての英文を書く問題では、県や市の平均から5ポイント以上低くなっている。</p>	<p>・場面や条件に応じた英作文の問題では、授業内で、聞いたり読んだりした表現を、各練習で取り入れる必要がある。自分の知っている英単語を使って表現する取り組みを、日頃から実践する。</p>

## 宇都宮市立清原中学校 第2学年 生徒質問紙調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「テストで間違えた問題について勉強している。」「学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」生徒の割合が県の平均を上回った。テストの際に、各教科ごとに間違えた問題をやり直す指導をしたり、学校全体で自主学習ノートの点検をしてきた結果だと思われる。これからは更に、授業の終わりに本時の復習内容を伝えるなど、家庭学習の進め方を適宜指導していきたい。

○「勉強していておもしろい、楽しいと思うことがある。」生徒の割合が県の平均を5%上回った。授業開始時、今日の授業の内容(ねらいや目標)を提示することで、学習内容が明確になり「わかる」「できる」につながったと思われる。これから更に、ペア学習やグループ活動を取り入れて、お互いの考えを共有し、相手を認め合ったり、励まし合ったりしながら学習の楽しさを味わせていきたい。

○「学習して身に付けたことは将来の仕事や生活に役立つと思う。」と解答した生徒の割合は90%を超えており、学ぶ意欲が高い。社会体験活動の事前指導として、職業について深く学び、将来の夢について考える指導を行った結果だと思われる。さらに、将来の夢を叶えるために学ぶことの大切さを教えながら、キャリア教育を推進していきたい。

○「時間を上手に使うことを心がけている。」生徒の割合は80%を超えている。小学校の頃から、自主学習ノートを利用して毎日の家庭学習を行うことで、計画的な学習や部活動も含めた時間の使い方を考えていると思われる。更に、学習委員会などが中心となり自主学習ノートの提出率の向上と内容の工夫をさせ、自分から進んで学ぶ力を育てていきたい。

●「家で、学校の授業の予習をしている。」生徒の割合が県の平均を5%下回った。授業の終わりには本時の復習の内容(家庭学習として)を伝えるなど、授業の予習・復習を含む家庭学習の進め方を適宜指導していきたい。

●「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている。」と答えた生徒の割合が県の平均を6.5%下回った。話し合い活動を生かせる場面、方法、期待できる効果などを全教職員で共通理解し、授業の中に話し合い活動を取り入れていきたい。

●「授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている。」生徒の割合が、県や市の平均から大きく下回った。授業で本時の学習の流れを示すとともに、学習の「目標」「ふりかえり」の活動を学校全体で重点課題として、各教科の授業で取り組んでいきたい。

## 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
めあて・振り返り活動の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「今日の目標」「振り返り」のカードを各教室に配置し、教科担当教員に授業で使用してもらう。</li> <li>○学習の流れ(めあての提示からふりかえりまでの流れ)を共通理解し、各教科で実践する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「授業で扱うノートには、学級の目標とまとめを書いている」という質問で、前年度は59.6%だったが、今年度は65.0%と5.4%アップした。しかし、市の平均とは13.5%の開きがある。学習の「目標」「ふりかえり」の活動を学校全体で重点課題として、授業で取り組む。</li> </ul>
話し合い活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○話し合い活動を生かせる場面、方法、期待できる効果などを全教職員で共通理解し、教科ごとに授業での活用場面を話し合う。</li> <li>○校内研修などで、効果のあった話し合い活動について、全教職員に周知する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学級が話しやすい雰囲気である」は市の平均を6.4%下回るが、「自分の意見を発表することが得意な生徒」は0.9%下回る結果だった。学級のような多人数は難しいが、小グループなら話し合い活動ができる生徒もいる。全職員で話し合い活動を取り入れた授業を実践し、話しやすい雰囲気を作る。</li> </ul>
「書く」活動の工夫・充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○定期テスト等で、書かせる問題を増やし、普段の授業でも書かせる機会を多く取り入れる。</li> <li>○授業の中で分かったことなどや振り返りを、言葉で書かせ、他の人に向けて説明させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「表現」に係わる問題の校内正答率は、国語の「書く力」で4.0%、英語の「外国語表現の能力」で5.6%、社会の「社会的な思考・判断・表現」で5.6%、理科の「科学的な思考・表現」で3.5%、市の平均を下回った。分かったことなどや振り返りを、言葉で書かせ、他の人に向けて説明させる活動を続ける。</li> </ul>
家庭学習の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自主学習ノートを全学年共通で行い、毎朝提出状況をチェックする。未提出の生徒には担任から声かけをし、継続して学習していけるよう励ます。</li> <li>○自主学習ノートのやり方として見本となるようなものを全校生徒に示す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「テストで間違えた問題について勉強している」「学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」は市の平均を上回る結果となった。しかし、「家で、学校の授業の予習をしている」は市の平均を下回る結果となった。授業の終わりには本時の復習の内容(家庭学習として)を伝えるなど、授業の予習・復習を含む家庭学習の進め方を適宜指導する。</li> </ul>